

Q6. NK/T Cell (T/NK Cell) の6桁目(分化度)コードを教えてください。

A6. M9719/3 NK/T 細胞リンパ腫、鼻腔及び鼻腔型の6桁目コードについては、NK/Tならば8、T/NKならば5を標準コードとします。

Q7. 非ホジキンリンパ腫 びまん性大細胞型 B 細胞性のコードを教えてください。

A7. M9680/36です。この病理診断名は、びまん性、大細胞型、B 細胞性の3つの単語の順番が入れ替わったり、部分表記(びまん性、大細胞、B など)で記載されることが多々ありますが、いずれも M9680/36 をコードします。

Q8. 慢性骨髄単球性白血病のコードを教えてください。

A8. M9945/3 です。骨髄性白血病、NOS M9860/3 の同義の中に、慢性単球性白血病 NOS がありますが、こちらは用いません。

Q9. 慢性骨髄増殖性疾患と本態性血小板血症が併記されていました。

A9. 慢性骨髄増殖性疾患は M9960/3、本態性血小板血症は M9962/3 ですが、慢性骨髄増殖性疾患の方が、本態性血小板血症を含むより大きな概念の疾患です。併記されている場合、形態コードは本態性血小板血症を優先してください。

Q10. 急性リンパ性白血病 Philadelphia 染色体陽性 (Ph1、Ph+とも表記) のコードを教えてください。

A10. ICD-O-3 には「急性リンパ性白血病 Philadelphia 染色体陽性」は存在しません。病的に最も合致するコードとして、B 細胞性ならば M9836/36、T 細胞性ならば M9837/35、免疫型表現型が不明ならば M9835/39 を代替標準コードとします。

Q11. 好酸球増多症候群 (Hypereosinophilic syndrome) は、登録対象でしょうか。

A11. M9964/3 が割り振られる登録対象疾患です。

(監修: 愛知県がんセンター研究所 松尾 恵太郎、
編集: 山形県立がん・生活習慣病センター 柴田 亜希子)

第18回地域がん登録全国協議会総会研究会のお知らせ

小越 和栄

新潟県がん登録室

第18回総会研究会を2009年9月4日(金)に、実務者研修会を9月3日(木)に新潟市中央区一番堀通町、新潟県民会館小ホールにて開催致します。今回のメインテーマとしては「がん登録とがん検診」を取り上げました。また研究会の主題としてパネルディスカッション「がん登録システムの標準化—その効用と問題点」を津熊先生の司会で行います。がん登録システムの標準化は現在各施設で着々と進行中で、すでに標準化を行っているところ、またこれから導入するところ等がありますが、この標準化の必要性、またこれを導入することにより過去のシステムとの齟齬をどのようにして解決してきたかなどを発表して頂き、標準化をスムーズに普及させたいことが主眼です。司会の津熊先生の下で活発な討論が期待されます。

今回は日本対がん協会新潟県支部との共催で公開講座「がん登録はどのようにがんの征圧に役立っているか—がん登録の利用—」を開催致します。聴衆として同時に開催されていますがん征圧新潟県大会に出席するがん検診関連の方々および新潟県診療録管理懇話会の会員の方々が一緒になります。がん登録がどのように役立っているのかを知って頂きたいと考えております。

3日の実務者研修会ががん登録を行う際の「進行度分類」および今回のメインテーマであるがん検診に関する「検診の精度管理」の2項目を予定しております。

ポスターは広い会場を確保してありますので各施設のがん登録の実情紹介および研究成果等数多くの発表をお願いしたいと思います。

新潟県民会館は信濃川の川岸で、種々の文化施設が集中しております白山公園の一角にあります。また新潟は酒どころでもあり種々の海の幸に恵まれておりますので、頭の疲れをゆっくりいやすことにも適した所と思っております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

9月4日(金) 総会研究会

参加費：3,000円

8:45 受付開始

8:45-9:40 ポスターセッティング(前日も可)

9:40-10:00 会長挨拶、来賓祝辞

10:00-12:00 パネルディスカッション

「がん登録システムの標準化—その効用と問題点—」

司会 津熊秀明

基調講演：標準化のめざすもの

国立がんセンター 味木和喜子

演題1. 実際に標準システムを導入、運用を開始して

栃木県立がんセンター 大木いずみ他

演題2. 大規模県における標準DBSの運用

—廻り調査と届出票画像化の経験—

愛知県がんセンター 伊藤秀美

演題3. 福井県における標準DBS導入の経緯

福井社会保険病院 藤田 学

演題4. がん登録の標準化と地域特性

放射線影響研究所 早田みどり

関連発言：病歴業務におけるがん登録標準化への対応

—特に病理組織コーディングに関連して—

県立がんセンター新潟病院 丸山洋一

特別発言：

山形県立がん・生活習慣病センター 柴田亜希子

12:00-12:30 総会

12:30-14:00 昼食兼ポスター見学

ポスター主題

1. 各登録室の現状

(各道府県1題ずつで内容は自由)

2. がん登録から見たがん検診

3. がん登録を利用した研究

4. その他

14:00-14:40 特別講演

司会 岡本直幸

「がん検診の精度管理と地域がん登録」

県立がんセンター新潟病院 小越和栄

14:40-14:50 ポスター表彰

15:00-17:00 公開講座—新潟県がん征圧月間行事との

共催— 大ホール

「がん登録はどのようにがんの征圧に

役立っているか —がん登録の利用—」

司会 祖父江友孝、小越和栄

1. なぜがん登録は必要なのか

大阪府立成人病センター 大島 明

2. がん研究にどのように役立っているか

新潟青陵大学 中平浩人

3. 新潟県に於けるがんの実態

新潟県がん登録室 内藤みち子

4. 新潟県がん検診の有効性について

県立がんセンター新潟病院 小松原秀一

9月3日(木) 実務者研修会

参加費：1,000円

14:00 受付開始

14:30-17:30 研修会

1. 進行度分類 (14:30-15:50)

司会 柴田亜希子

1) 病期分類概論

福井県立病院 海崎泰治

2) がん登録でどのように使用されているか

大阪府立成人病センター 井岡亜希子

15:50-16:10 休憩

2. 検診の精度管理 (16:10-17:30)

司会 小越和栄

1) 精度管理の評価方法

宮城県立がんセンター 西野善一

2) 検診データ精度管理の実際

新潟プレスト検診センター 佐野宗明

18:30- **情報交換会** オークラホテル新潟 4階

参加費：3,000円

第18回地域がん登録全国協議会総会研究会

会長：小松原 秀一

事務局：〒951-8566 新潟市中央区川岸町2-15-3

県立がんセンター新潟病院

がん予防総合センター内

新潟県がん登録室

TEL：025-230-3927 (直通) FAX：025-230-3928

Email：touroku@niigata-cc.jp

参加申し込みについて：

協議会会員様宛にお送りしました申込用紙と郵便振込用紙をご利用の上、**7月31日**まで事前申し込み、会費前納をお願いします。領収書は後日郵送します。

**国立がんセンターがん対策情報センター
がん情報・統計部地域がん登録室便り**

松田 智大 丸亀 知美 味木 和喜子

国立がんセンター がん対策情報センター

がん情報・統計部

また暑い夏が近づいてきました。前号の No. 24 の「地域がん登録室便り」を執筆したのは冬。暖かくなってから新型インフルエンザが流行するとは全く予想もしていないころでした。

1. 地域がん登録行政担当着任説明会開催

初めての試みとして、新年度に地域がん登録の担当に着任された都道府県の職員の方を対象に、5月に説明会を開催しました。地域がん登録の実施・未実施県含めて、19県から40名弱の参加がありました。中には、冒頭の新型インフルエンザ対応に追われて出席を断念された方、直前まで参加できるかどうかわからないと御連絡をくださった方もいらっしゃいましたが、結果的には、5月12日に無事に説明会を終えることができました。

がん登録の行政担当者は、2～3年での異動が多いので、互いに顔を覚え、情報交換をし、これからと意気込んでいたところで、「お別れ」となることが多々あり、せつかくの縁を長期に継続できないことがとても残念です。とはいえ、短い期間であっても担当になられた方同士、協力して地域がん登録事業がより発展するような体制を築いていくしかありません。新規着任の方も、引き続き御担当の方も、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

2. 第31回国際がん登録協議会学術総会参加

6月は、アメリカで行われた第31回国際がん登録協議会学術総会に、がん情報・統計部から部長以下4名が参加致しました(写真1)。研究活動の発表とともに、来年10月に横浜で開催される第32回学術総会について意見交換をしてまいりました。



写真1. 学術総会会場の様子